

特定非営利活動法人 CAP センター・JAPAN

2014 年度事業報告書

報告対象期間：2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日



あんしん

じしん

じゆう

子どもの特別に大切な3つのけんり



特定非営利活動法人

CAP センター・JAPAN

子どもへの暴力防止
Child Assault Prevention

～すべては子どもの“安心・自信・自由”に！～

目次

I. 2014年度の成果と総括	2
II. 事業報告	
第1事業 CAPプログラムを提供する各種人材の養成講座と研修学習事業	5
第2事業 子どもへの暴力防止全般の学習・啓発事業	7
第3事業 CAPに関する情報提供および相談事業	9
第4事業 CAP活動に関する広報事業および出版事業	10
第5事業 CAP実践活動に関する調査およびプログラムの効果調査	12
第6事業 子どもの権利擁護と暴力防止に関わる個人および団体との連携のための事業	13
III. その他の活動	15
IV. 各種委員会	15
V. 助成事業	16
VI. ご寄付	16
VII. CAPセンター・JAPANの運営に関する事項	17
VIII. 資料 新聞記事	19
IX. ご支援いただいた個人および団体	20
X. CAPセンター・JAPANの団体概要	23
XI. CAPトレーニングセンターとしてCAPセンター・JAPAN	24

子どもたちはみんな、
安心して自信を持って自由な気持ちで生きる権利を持っています。



I. 2014 年度の成果と総括

[1]はじめに

2014 年度、CAP センター・JAPAN は新たなチャレンジをした年でした。「CAP 版チャイルドビジョン」の制作、それに関連し、クラウドファンディング READYFOR? (レディーフォー) では、チャイルドビジョンのうた「ぼくの虹」の CD 化に取り組み、1,400 人を越える方から共感の「いいね!」、120 人を越える方からご支援をいただき、無事目標金額の 120 万円を達成することができました。その間 40 回以上 READYFOR? で情報発信をし、たくさんの方に CAP 活動について知っていただく機会を得、中には今回初めて CAP を知ったという方との出会いもあり、目標金額の達成だけでなく大きな収穫を得ることのできた取り組みとなりました。

READYFOR? のチャレンジと連動する形で活用した Facebook では、出来事対してできる限り即時性を持って発信することを心がけました。昨年度の終わりに『185』だったページへの「いいね!」が、2014 年度末には『411』となり、3,800 人を越える方が投稿を見たという記録も出るなど、少しずつですが“子どもの視点”を意識するおとなが増えることにつながっていると実感しています。また、寄付サイト GiveOne (ギブワン) でもたくさんのご支援をいただき年間を通して継続してご支援をいただく方も多数いらっしゃって、プロジェクトが子どもへの暴力防止に参画していただく機会となっているものと考えています。社会的養護のもとに暮らす子どもたちへの関心を広げる意味でも、この取り組みを継続し、より多くの方に参画していただけるように社会発信を行っていきます。

子どもが巻き込まれる事件、子どもが引き起こす事件が相次ぎ、少年法の改正の声もあがっています。予防教育の重要性が増しているなかで、プログラムの実践数は減少傾向に歯止めがかからない現状があります。子どもたちにとって CAP プログラムの提供がより有効に機能するよう努め、子どもへの暴力防止における第 1 次予防の重要性を社会にアピールする必要性を痛感しています。

2014 年度に出会った方々、関心を寄せてくださった方々、そしてご支援をいただいた方々に深く感謝しつつ、2014 年度を振り返ります。

[2]2014 年度の運営

団体運営については、事務局で 3 か月ごとに財政状況を確認し、理事会に随時報告しながら行いました。半期ごとには、予算達成率を見て、参加者増のために事業実施地域の近隣グループに広報の協力や参加の呼びかけなどを行いました。しかし、残念ながら依頼者のご事情で中止となった講座、広報不足等で参加者が少なく中止した CAP スペシャリスト対象研修、講師のご都合で中止となった専門職研修、準備が整わず開催を見送った地域セミナー（障がいのある子どもへの暴力防止）が複数回出るという結果となりました。今後は外部からの要請の場合の対応のマニュアルづくりや CAP スペシャリスト対象研修を地域に呼びかけ、地域主導の企画で開催する等を 2015 年度事業の中で取り組んでいきます。また、事業実施において早めの広報をスケジュールに組み込み、ホームページと Facebook 等を連動させ、戦略を立てて広報することを徹底していきます。特に 2015 年 5 月にリニューアル予定のホームページは、NPO 法人サービスグラントの助成を受け、Panasonic プロボノチームとの協働で取り組み、昨年夏から何度も会合を重ねてきました。外部の方や地域グループ等の皆さんにインタビューやアンケートにご協力いただき、それらの分析を踏まえた構成になっています。十分に活用し、広報の強化等に取り組んでいきます。

(1) 2014 年度事業方針

- 1 市民発の子どもへの暴力防止のウエーブの起点をつくる
- 2 子どもの安心・自信・自由をサポートできるおとな、そのおとなを援助するセイフティネットをつくる

① 子どもへの暴力防止活動の支援者・理解者の拡大

新規事業としての取り組み「幼児期の子どもの生きる力を育む～子育て支援講座」は、関東（東京都）と関西（兵庫県）の2か所で開催し、41人の参加でした。2015年の1月末に行った関西での講座は、最終的には皆さんにご参加いただくことができましたが、キャンセル待ちの状況もありました。幼稚園教諭や児童養護施設の幼児期の子どもを担当する職員などが参加し、中には1つの園から複数名の参加もありました。情報を求めている方の存在はあっても、そこにどうやって講座の情報を届けるのかが、今後の大きなカギだと感じています。広報の協力者・キーパーソンとつながり、年間を通じて広報することに取り組んでいきます。また、「子どもへの暴力防止のための基礎講座」（以下、基礎講座）の参加者は、6か所128人で前年比約4%減でしたが、行政担当者、施設職員の参加が確実に増えています。また、CAPプログラムはご存じなく、Webサイトを見て申込まれる方が半数以上となっています。地域のCAPグループの方には、行政や児童養護施設とのつながりを強くするための機会として、積極的に広報にご協力いただいておりますが、今後分析を重ね、より効果的な広報を地域で行っていく必要があると感じています。2015年度はCAPグループの周年事業として取り組む地域もあり、CAP活動の活性化という観点からも基礎講座への参加者増、子どもへの暴力防止活動の支援者・理解者の拡大をめざします。

② 社会発信ツールの整備によるCAPプログラム普及の強化

Facebookは平均して約380の方が記事を見てくださっていて、団体ページへの「いいね！」は「411」（2015年3月31日現在／昨年度5月末は「185」）となりました。事業のお知らせや報告、CAPだからこそその観点であらゆる子どもへ暴力をトピックとして取り上げ、「子どもの視点から出来事を見る」ことを意識して取り組みました。Twitterは、「CAPプログラム」について知りたいと思っている方、知らない人が子どもへの暴力防止について検索したときにヒットするようという意識で更新を続けました。CAPプログラムに参加した子どもたちの声、保護者の声も紹介しながら、少しずつですがフォロワーを増やしていっています。

次年度は、誰でも簡単にNPOを支援することができるソーシャルグッドプラットフォームgooddo（グッドゥ）に参加することから、社会発信ツールを活かし、多くの方にむけて情報発信できればと思っています。

今年度は、CAPセンター・JAPANのリーフレットとCAPプログラム広報のリーフレットを新たに制作し、地域グループに定時総会の前に「RTC登録グループの集い」を開催し、お披露目を行いました。特にCAPプログラム広報のリーフレットは、CAPプログラムが何に有効なのかを、教職員ワークショップ・保護者ワークショップ・子どもワークショップの3つのアプローチにそれぞれを表記し、依頼者が自分の目的と合致するものを選べるように工夫しました。おかげさまで複数のグループから行政担当者向け等にご注文をいただき、すぐに増刷となりました。今後、より一層活用していただけるよう働きかけ、課題を抱えながらもまだ情報が届いていない方やCAP導入に踏み切れずにいる方々に、CAPプログラムの有効性を知

っていただけるよう広報活動のアイデアを検討していきます。

③ 社会的養護における活動の充実<トレーニングセンターとしての取組み>

2013年度にCAPセンター・JAPANが地域グループとの協働で行った地域セミナーを契機に、2014年度はその参加者の施設で職員ワークショップが実施されました。グループとして初めての社会的養護の現場でのプログラム提供であったことから、研修や準備段階でのサポートを行いました。職員の皆さんがまずCAPプログラムを知るところから、ということで初年度は職員ワークショップのみとし、丁寧な働きかけを心がけました。2015年度は同施設から職員ワークショップ等の依頼が入っており、目的・目標を共有しながら、ステップを1歩ずつ踏んでいく大切さを改めて感じています。その他、継続実施施設での職員ワークショップの内容に関するご相談など、タイミングよく応えるよう努めました。社会的養護の現場の状況は、CAPがプログラム提供に関わってから10年を過ぎ、小規模化に向かうなど変化を遂げています。施設ごとの課題にフィットしたプログラム提供となるよう、よりきめ細やかなサポートを行っていきます。

④ 子どもへの暴力防止のためのネットワークの促進・強化

ここ数年積極的に取り組んできたネットワークの拡大・強化は、CAPプログラムへの期待の声と共に、活動が外部からどう見ているのかを教えてくださいました。学校で子どもにプログラム提供をしているだけと思われるCAP活動から、「子どもの人権が尊重され、子どもへの暴力のない社会をつくる」というミッションを達成するために、学校外との関わりも積極的に持ち、地域・社会全体に働きかけることのできる活動という強みを活かしていくことを急ぎ検討していく必要を感じています。また2014年度は、子どもの特別に大切な3つの権利「安心・自信・自由」が保障される環境づくりをめざし、外部の方にも力を貸していただいて「指標づくり」にも取り組みました。2015年度も引き続き、検討を重ね、試行を含めて取り組みを進めていきます。この「指標づくり」のプロセス、そして「指標」が子どもへの暴力防止のためのネットワークの促進・強化にも役立つものと考えています。



⑤ 上記活動を展開する体制の強化

CAPプログラムの提供は、地域のRTC登録グループが担っていますが、プログラム実践数は一部地域を除いて減少傾向にあります。広報をして要請があっても応えきれないので広報できない、といった声もあがっています。RTCとして地域で子どもへの暴力防止に取り組む体制を今一度強化しなければなりません。





一方、事務局では、2014年度は下半期に事業が集中してしまい、本来業務の準備の進捗が滞る状況が起きました。今後、子どもへの暴力防止のネットワークの拡大・強化などがより重要になることから、体制の強化が急務であると考えています。正会員や地域のCAPグループとの協働を推進し、幅広く多角的に子どもの人権が尊重され、子どもへの暴力のない社会をめざし、立ち止まることのないように事務局体制を整えていきます。そのためにも、事業全体の参加者増に全力を尽くしたいと思います。



Ⅱ. 事業報告

事業名	分類 第1事業 CAPプログラムを提供する各種人材の養成講座と研修学習事業 子どもへの暴力防止の専門家の養成・育成によってプログラム提供活動の継続とCAPプログラム提供の質の維持・向上の支援を行う。
目的	1. 子どもの発達段階やニーズに応じたCAPプログラム実践活動を行うCAPスペシャリストを養成する。 2. 子どもへの暴力防止の専門家としての専門性を高め、根拠を持ち、質の高いプログラム実践活動を行う。
実施概要	1. 子どもの発達段階やニーズに応じたCAPプログラム実践活動を行うCAPスペシャリストを養成する。 (1)CAP スペシャリスト養成講座 3日間24時間のCAPプログラム実践者の養成講座。CAP活動のベースとなるCAP小学生プログラムのファシリテーターとロールプレイヤーの資格を取得することができる。 ≪実施場所≫・愛知県刈谷市 5月9日～11日 13人参加/うちフォローアップ受講5人(修了後、1人がグループに登録) ・兵庫県西宮市 2015年2月6日～8日 17人参加/うちフォローアップ受講1人(修了後、4人がグループに登録) ・沖縄県那覇市 2015年2月12日～14日 25人参加/うちフォローアップ受講5人(修了後、18人がグループに登録) 計3回55人/うちフォローアップ受講11人  ◀CAP スペシャリスト養成講座の一コマ 2. 子どもへの暴力防止の専門家としての専門性を高め、実践にむけて根拠を持ち、質の高いプログラム実践活動を行うための支援 (1)資格更新のための必須研修トークタイム CAP スペシャリストとして質の高いプログラム提供活動を行い続けるための3年毎の資格更新にあたって期限までに一度(3年間のうちに1回)受講が必須となっている研修。テーマはトークタイム(クラス単位で行ったCAP子どもワークショップ終了直後に行うCAPスタッフと子どもの個別の復習と練習の時間。)で、①初回バージョン(1回目の更新時は必ずこの内容を受講する必要がある)、②就学前プログラムトークタイム、③どんどん実習編、④先生との振り返り実習編の4種から2回目以降の更新では選択できる。 ≪実施場所≫・滋賀県 4月27日 どんどん実習編 ・山梨県 6月17日 初回バージョン ・東京都新宿区 7月15日 就学前プログラムトークタイム ・徳島県徳島市 7月20日 初回バージョン ・滋賀県 9月7日 どんどん実習編 ・和歌山県御坊市 2015年1月24日 初回バージョン ・神奈川県相模原市 2015年3月11日 初回バージョン 計7回80人  3年に一度の資格更新研修の様子▶ 写真はいずれも初回バージョン

実施概要	<p>(2)CAP スペシャリスト研修</p> <p>①「ネットコミュニケーションの時代を生きる」</p> <p>CAP スペシャリストが学校等でスマホや SNS にからむ子どもへの暴力防止について CAP として取り扱えるようにするための研修。</p> <p>講師：古野 陽一さん (NPO 法人子どもとメディア専務理事、当法人理事)</p> <p>《実施場所》 兵庫県西宮市 5 月 24 日 42 人参加</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>◀グループワークの様子</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>講師の古野さん▶</p> <p>わかりにくいネットの仕組み が非常にわかりやすく！！</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <p>②「社会的養護の現場での CAP の有効性と課題」</p> <p>社会的養護の現場での取り組みを 2 つ (長野県・福岡県) 発表し、そこから見える CAP の有効性と課題を西澤さんに解説していただく研修。</p> <p>講師：西澤 哲さん (山梨県立大学人間福祉学部教授、当法人理事)</p> <p>《実施場所》 大阪市東淀川区 10 月 25 日 14 人参加</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>いつも熱く語ってくださる講師の西澤さん▶</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <p>(3) 出前講座 (CAP スペシャリスト対象)</p> <p>①就学前プログラム研修</p> <p>《実施場所》愛知県豊橋市 7 月 6 日 13 人参加</p> <p>②教職員ワークショップ研修 いじめ防止に特化した教職員研修のプログラミング</p> <p>《実施場所》徳島県徳島市 7 月 19 日 8 人参加</p> <p>③社会的養護の現場への CAP プログラム提供研修</p> <p>《実施場所》山口県山口市 11 月 4 日 8 人参加</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>仲間と学びあう出前講座▶</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに誕生した CAP スペシャリスト 44 人のうち、52%がグループに所属した。 ・資格更新制度導入から 4 年がたち、浮かび上がった課題から 2 回目更新で初回バージョン以外の必須研修を構成し、実施することができた。 ・新たなツールの制作によって、CAP 活動の有効性を広めること、活動のバリエーションを広げることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・RTC 登録グループ全体でプログラム実践の活性化やアイディア、最新情報等を共有しながら、CAP としての取組みを大きなウエーブにしていくのかを検討する必要がある。 ・CAP スペシャリスト養成講座受講にむけてのアクションの導線を検討する必要がある。

事業名	分類	第2事業 子どもへの暴力防止全般の学習・啓発事業
		専門職や広く市民を対象とする子どもへの暴力防止に関する学習・啓発の講座・研修会を実施する。
目的	子どもへの暴力防止全般に関する学習・啓発活動によって子どもの人権が尊重され、子どもへの暴力のない社会構築への環境づくりと整備を行う。	
実施概要	<p>1. 子どもへの暴力防止のための基礎講座</p> <p>行政からの後援を各地で受け、関連する担当課等の方々に受講していただいた。今年度は学生対象は開催せず、一般対象に学生料金を設けて開催した。</p> <p>《実施場所》</p> <p>愛知県刈谷市 4月18日～20日 15人参加 ※後援：岡崎市、高浜市、豊田市</p> <p>東京都新宿区 10月3日～5日 12人参加</p> <p>岐阜県高山市 11月7日～9日 16人参加 ※後援：岐阜県、高山市、高山市社会福祉協議会、すまいるファミリー</p> <p>佐賀県みやき町 12月5日～7日 34人参加 ※【主催】一般社団法人さが子どもにやさしいまちづくりセンター CAPセンター・JAPANは共催。</p> <p>沖縄県那覇市 12月11日～13日 22人参加</p> <p>兵庫県西宮市 2015年1月10日～12日 29人参加 ※後援：西宮市・西宮市教育委員会</p> <p style="text-align: right;">計6回128人</p>	
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <p>グループワークで 考える具体的なアクション</p> <p>◀基礎講座での 模擬体験・子どもワークショップの様子</p> </div> <div style="width: 45%;">  </div> </div>	
<p>2. 幼児期の子どもの生きる力を育む-子育て支援講座</p> <p>幼児期の子どもに特化して様々な発達を学び、模擬体験し、“幼児期の子どもの視点”を意識して子どもと関わるができるおとなを増やすことを目的とした2日間の講座。これまでのCAP活動の中で聴いてきた子どもの声等を還元しながら、幼児期の子どもへの暴力防止に日常生活で取り組むため、「もしもの話」や「考え方トレーニング」といった具体的な関わりについても考えていった。</p> <p>《実施場所》</p> <p>東京都新宿区 10月12日・13日 11人参加</p> <p>兵庫県西宮市 2015年1月31日・2月1日 30人参加 計2回40人</p>		
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  </div> <div style="width: 45%;">  <p>◀講座では、幼児期の子どもの発達の模擬体験もいくつか行っています。幼児期の子どもの視点・感覚を意識します。</p> </div> </div>		

3. 専門職研修「虐待を受けた子どもの心」

講師：西澤 哲さん（山梨県立大学人間福祉学部教授、当法人理事）

児童養護施設などの社会的養護の現場の職員、関わる人たちを対象に虐待を受けた子どもの心にどんな影響を及ぼすのかを学び、考える研修。

《実施場所》

大阪市東淀川区 10月26日 37人参加



熱心に聞き入る参加者の皆さん▶
ちょうど大阪マラソンの日でした。

4. 『健』 養護教諭対象月刊誌寄稿(2014年12月号)

タイトル“子どもの安心・自信・自由を守る「安全基地」となるために”

産経新聞の記事を見て、依頼を受けた養護教諭対象の月刊誌『健』への寄稿。性暴力を受けた子どもの心理等について寄稿。



月刊誌『健』▶

5. 全国社会福祉協議会年次報告原稿作成（2015年3月6日発行）団体活動の紹介。

毎年声を掛けていただいて、団体の活動紹介を掲載しています。


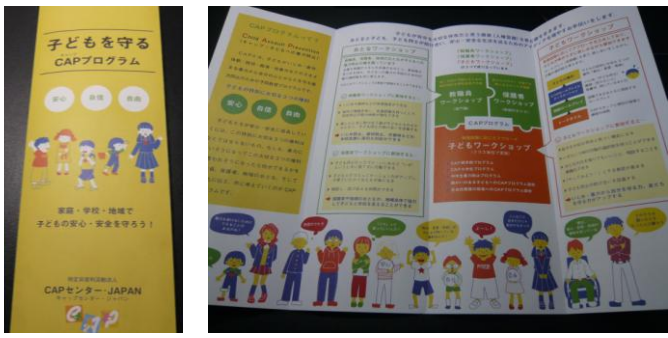






『権利擁護・虐待防止白書 2015』▶

- ・第2事業全体で206人が参加し、子どもへの暴力防止に寄与する地域の人材養成につながった。
- ・これまで課題としてあがっていた、ネットワークの構築という視点で参加者や共催・後援団体との繋がりを一回の参加に終わらせずどうつながり続けるかについては、「子どもへの暴力防止のための基礎講座」参加者の「幼児期の子どもの生きる力を育む」講座への参加、CAPグループがプログラム提供を行っている施設からの職員の研修への参加があり、一定の成果につながったものと考えられる。
- ・これまでのCAP活動で培った幼児期の子どもへの暴力防止のための情報・スキル等を還元する新規事業「幼児期の子どもの生きる力を育む」講座を実施することができた。



- ・第2事業についてはいずれも広報を行い、より広い層に参加を呼び掛ける働きかけの工夫が急務。
- ・プログラム実践数が減少傾向にあるため、第2事業を地域のCAP活動活性化とどう連携させるかを検討することが必要。
- ・子どもの人権が尊重され、子どもへの暴力のない社会にむけて、日常と子どもの権利が乖離しないよう意識し、参加者のニーズも取り入れながら、日常で使える道具を手渡していく講座にむけて改善を重ねていくことが必要。


事業名	分類	第3事業 CAPに関する情報提供および相談事業
	電話・メール、HP等によって情報提供および対応を行う。	
目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報提供によるCAP活動の普及・促進する。 2. 情報提供による子どもへの暴力防止活動の促進を図る。 3. CAPプログラム実践活動の質の維持・向上の支援を行う。 	
実施概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報提供によるCAP活動の普及・促進 電話、FAXおよびメールによる照会および対応の実施 外部からの照会や問合せへの対応を実施。グループに依頼のため連絡を取りたいという問い合わせがPTA・教職員・行政から多くあった。北部エリアについても対応を行った。 2. 情報提供による子どもへの暴力防止活動の促進 -情報収集と共有化- (1)地域で活動するCAPグループの情報やCAP活動の取り組みに関する情報収集を行い、ホームページのトップページに紹介コーナー『あなたの地域のグループからのお知らせ』で随時更新。 (2)正会員対象のメールマガジンの発信 NPO法人としての今月の動き、来月の動きや正会員へのお知らせ、他団体からの情報を発信した。 「NPO法人CAPセンター・JAPAN通信」12回 毎月末発信。 号外11回（うち6回はRTC通信号外との合併号） (3)CAPトレーニングセンター登録団体対象（RTC登録団体）のメールマガジンの発信 トレーニングセンターからRTC登録団体にむけての研修案内等の情報発信を行った。 「CAPセンター・JAPAN RTC通信」12回 毎月初め発信。号外13回 (4)寄付サイトでの取り組みや報告等をメール、はがき等で不定期に発信。 (5)新聞やウェブの子どもへの暴力防止に関連する記事を毎月まとめ、「最新情報」としてRTCメールマガジンでお知らせ。12回 毎月初めホームページにアップ。 3. CAPプログラム実践活動の質の維持・向上の支援-CAPプログラム提供に関する相談などの技術的支援等の窓口 CAPグループからの相談の窓口となり、トレーニング委員会との連携で対応。また運営面についての相談にも対応。 	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ等のWebによる情報を見て「子どもへの暴力防止のための基礎講座」等を受講する人が増加した。 	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・広がってきたつながりを整理し、戦略を立てて広報活動を行う必要がある。 ・どうしても文字数が多くなる説明を簡略化し、視覚化する工夫が必要。 ・2015年度から取り組むソーシャルグッドプラットフォーム gooddo(グッドウ)にむけて、子どもへの暴力防止に関心を寄せてもらうしかけが重要で、情報発信だけでなく、情報拡散を意識し、要検討。 	

事業名	分類	第4事業 CAP活動に関する広報事業および出版事業
	CAP活動の普及・子どもへの暴力防止に関する啓発を図るため、講演録の発行や会報誌等の発行・発信を行う。	
目的	1. 出版による啓発 2. 広報による子どもへの暴力防止活動の促進（社会発信力の強化による子どもの育ちを支援するための意識化・環境づくり）	
実施概要	1. 出版による啓発 (1)CCJ団体リーフレット作成・印刷 団体が何をめざすのかを明確に示し、支援者・理解者を増やすことを目的に制作したリーフレット。A4版三つ折りカラー印刷。 	
	(2)CAPプログラムリーフレット作成・印刷 CAPを導入しようする方を対象考えて、作成したCAPプログラムリーフレット。CAPプログラムの概要と有効性をワークショップの対象者毎にわかりやすく記載した。A3版4つ折りカラー印刷。 	
	2. 広報による子どもへの暴力防止活動の促進（社会発信力の強化による子どもの育ちを支援するための意識化・環境づくり） (1)「CAP版チャイルドビジョン」の作成・印刷 幼児期の子どもの交通事故を減らすため、運転者の交通安全教育のために制作された「チャイルドビジョン」。幼児期の子どもに関わるおとなが体験することで、“子どもの育ち”を支援する際「子どもの視点」を理解するのに役立つと考えた。そこで企画制作に携わり「チャイルドビジョン」と命名したテラダクラフトスタジオの寺田松雄さんの許可を得て、解説を含めて「CAP版チャイルドビジョン／子どもだけに見える世界模擬体験メガネ」として制作。ホームページからダウンロードできるようにした他、A4版厚紙でカラー印刷をし、頒布も行うようにした。「幼児期の子どもの生きる力を育む」講座等で活用するほか、保育所や自動車学校等からも注文をうけ、頒布を行った。   	
	カットして組み立てます。	◀こんなふうに使います。

実施概要	<p>(2)チャイルドビジョンのうた「ぼくの虹」の楽曲制作と CD 制作</p> <p>子どもだけに見える世界／チャイルドビジョンのうた「ぼくの虹」は、講座等での模擬体験だけでなく、日常生活の中で“子どもの視点”を意識することができるものとしてプロの作詞家・作曲家に依頼をし、クラウドファンディング READYFOR? (レディーフォー) で資金調達 (目標金額 120 万円を達成) を行って制作。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご支援をいただいた方 123 人 ・プロジェクトへの「いいね！」1,461 <p style="text-align: center;">「ぼくの虹」の CD ジャケット▶</p>  <p>(3)絵はがき制作</p> <p>チャイルドビジョンのうた「ぼくの虹」の CD 化を記念して制作。講座等でも頒布。</p> <p>(4)会報誌「CAP NEWS」No. 26 (10月)、No. 27 (2015年3月)の発行</p> <p>今号からレイアウトを一部変更し、外部に印刷を発注し、カラー版で配布できるようにした。No. 26 では、当法人理事の古野 陽一さん(NPO 法人子どもとメディア専務理事)、No. 27 では、当法人も団体事務局として参画している「体罰をみんなで考えるネットワーク」代表の住友剛さん(京都精華大学教授)にトップページに寄稿をいただき、社会の中で子どもの置かれている状況、それに対するアクションを紹介した。</p>  <p>(5)活動会員情報誌「The☆すぺしゃりすと」</p> <p>第40号(8月)、第41号(12月)、第42号(2015年3月)の3号を発行。活動会員(CAP スペシャリスト)に当法人の取組み、RTC の取組み、プログラム実践についてのヒントを掲載。東日本震災に関連するシリーズの連載は10回となった。</p> <p>(6)フレッシュャーズ対象通信「すたあと」1・2・3号</p> <p>CAP スペシャリスト養成講座を修了して1年間のフレッシュャーズサポートの一環として発行。世界のCAP や活動において大切にしたいこと、書籍紹介などを行った。</p> <p>(7)Facebook・Twitter の更新</p> <p>折々の社会での子どもへの暴力に関連する記事を中心に事業の案内・報告の発信を行った。通信等にもQRコードでアドレスを入れ、アクセスしやすい環境づくりを行った。</p>	
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・CCJ 団体リーフレット、CAP プログラムリーフレットによって、何をめざして活動してるのか、どんな効果があるのか等を明確に示せるツールが完成した。 ・Facebook のページへの「いいね!」、Twitter のフォロワー共に増加し、CAP スペシャリストだけでなく、たくさんの地域の子どもの暴力防止に関心を寄せる人とのつながりを持つことができた。 ・会報誌「CAP NEWS」を外部発注でカラー印刷にしたことで、RTC 登録団体が地域で配布する際に体裁がよくなり配布しやすくなったとの声が寄せられた。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・外部に印刷を発注する機会が増え、校正を今まで以上に慎重に行うことが必要になったことから、客観的に校正をしていくためにもスケジュール管理の検討が必要。 ・事務局員の業務の分担は、一人が一つの事業とはいかず、どうしても重なることになり特に第4事業はその傾向が強い。そのため結果として、進捗が遅れるということが起こり、業務の整理や進捗状況の確認のシステム等の検討が必要。 ・今後、プレスリリースなども行うことを視野に入れ、NPO としての活動の幅を広げていく必要がある。

事業名	分類	第5事業 CAP実践活動に関する調査およびプログラムの効果調査
		各プログラム実践の調査・集計・分析を行う。
目的	1. 調査の結果の社会発信による社会的インパクトによって信頼を高める。 2. 調査研究の結果の分析から活動の改善と促進を図る。	
実施概要	1. 調査研究の結果の社会発信による社会的インパクトによって信頼を高める。 (1)年度初めに提出されるCAPプログラム実践団体からの「CAPプログラム実践報告」を集計し、CAPプログラムに関するすべての権限を持つICAP(International Center for Assault Prevention 国際暴力防止センター)へレポートを提出。 (2)北部のトレーニングセンターJ-CAPTAと統計を交換し、日本におけるCAPプログラム実践の累計等をホームページや会報誌などで公開。	
成果	<ul style="list-style-type: none"> 地域グループの協力を得て、実践報告の提出を早くしたことで年度の早い段階で統計をホームページにアップすることができ、直近のデータとして講座等でも公表することができた。 これまでにおよそ491万人以上のおとなと子どもが参加していることを示す累計は、CAPプログラムに対する信頼を客観的に示すものとなった。 	
課題	<ul style="list-style-type: none"> 一昨年、昨年度からの積み残しであった課題が積み残しのままとされている。 ①カリキュラム毎の集計や集計結果の分析を行い、地域ごとの戦略、カリキュラムごとの戦略を立てて臨むことが必要。 ②地域を対象とした参加者数やワークショップ数の統計など、地域を意識した活動にむけた戦略の検討が必要。 ③累計だけでなく、子どもへの暴力のない社会をめざした社会変革を数値化するなど、団体のミッションの達成にむけた効果的な指標の検討が必要。 	
備考	<p style="text-align: center;">CAPワークショップ参加人数累計と年間実施回数</p> <p>これまでの累計</p> <ul style="list-style-type: none"> おとなワークショップ数 54,497回 おとなワークショップ参加者数 1,870,455人 子どもワークショップ数 104,997回 子どもワークショップ参加者数 3,046,670人 <p>おとなと子どもを合わせて4,917,125人が参加している。 (2000年～2013年の調査)</p>	

事業名	分類	第6事業
	子どもの権利擁護と暴力防止に関わる個人および団体との連携のための事業	
様々な団体や活動等との多様な連携によって行う事業		
目的	連携によって子どもへの暴力防止活動の多角的、多面的な促進・強化を図る。	
実施概要	<p>(1) さが CAP 解散総会 《実施場所》佐賀県 4月6日 任意団体であったさが CAP の解散に伴う手続きのための解散総会の開催。 ※現在は一般社団法人さが子どもにやさしいまちづくりセンターが佐賀県内でのワークショップを実施。</p> <p>(2) 出前講座 (CAP スペシャリスト対象) グループ運営 《実施場所》大阪府 4月13日 8人参加</p> <p>(3) RTC 登録グループの集い 《実施場所》兵庫県西宮市 5月25日 26グループ 37人参加 プログラム実践が延び、委託事業も増えている愛知県内のグループのデータを分析し、グループメンバーへのインタビューの形で取組を紹介と新ツールのお披露目を行った。</p> <p>(4) 司法面接研修 (RATAC) アクター 司法面接研修の子ども役 (アクター)。 《実施場所》神奈川県 6月1・2日、11月16・17日</p> <p>(5) 保育士研修 《実施場所》愛知県豊橋市 7月5日 東京都世田谷区 7月14日 ※世田谷区役所からの依頼で3年目の実施。 計2回 200人</p>  <p>◀保育所だけでなく、認定子ども園も今年度から加わりました (世田谷区)</p> <p>(6) 公開講座「チャイルドビジョンを体験してみませんか～幼児期の子どもたちを育てるあなたへ」 《実施場所》徳島県徳島市 7月18日 18人参加 「CAP 版チャイルドビジョン」や大きな手を使って子どもの育ちに関わるおとなが気づきをもつための講座。【主催】CAP とくしま</p> <p>(7) 子ども虐待防止世界会議名古屋 2014・日本子ども虐待防止学会 2014 (ISPCAN・JaSPCAN) 参加・パネル展示 ISPCAN との同時開催となった JaSPCAN に参加し、パネル展示を行った。パネル展示は英文併記で、CAP に関するすべての権限を持つ ICAP (国際暴力防止センター) からデータをもらい、「世界の CAP の取り組み」「日本の CAP の取り組み」を編集してパネルを作成した。《実施場所》愛知県名古屋市 9月14・15日</p>  <p>休憩時にはパネルの前に立ち、CAP プログラムの紹介や書籍販売を行いました▶</p>	

	<p>(8) 大学講座担当（社会起業講座・人権啓発講座） ≪実施場所≫大阪府東大阪市 9月21日 社会起業講座 兵庫県加古川市 10月22日 人権啓発講座 ※継続2年目</p> <p>(9) 関西子どもの権利条約フォーラム2014 運営委員として企画段階から参加し、当日も分科会で発表を行った。また、関西における子どもの現状を変えていくための提言集の作成にも携わり、提言を行った。 ≪実施場所≫大阪府大阪市 11月9日</p> <p style="text-align: center;">参画した団体が互いを知りあうために 学習会も行いました▶</p>  <p>(10) 体罰をみんなで考えるネットワーク設立記念シンポジウム『「体罰」の向こうに見えるもの』 「旧・反体罰 NPO・研究者連絡会」から発展的に発足したネットワーク。団体として参画し、CCJ 事務局長が副代表を務めることとなった。 ≪実施場所≫大阪府大阪市 2015年1月11日</p> <p>(11) 1.17 から 3.11 へ 詩の朗読とメモリアルコンサート ≪実施場所≫兵庫県西宮市 1月18日 阪神淡路大震災から 20 年の節目に開催された竹下景子さんの詩の朗読と音楽のコラボレーションで行われたメモリアルコンサート。運営委員に加わり、当日もスタッフとして参加した。</p> <p>(12) ベネッセチャレンジ通信.net 記事【Web】 2015年2月19日更新 「危険から自分の身を守る 高学年からの安全・防犯! Q&A」 http://blog.benesse.ne.jp/challetsu/tokusyuu/000188.html</p> <p>(13) さくら FM（コミュニティ FM／兵庫県西宮市） NPO 紹介番組コーナー出演 放送日：2015年2月18日</p> <p>(14) 母子生活支援施設職員研修 ≪実施場所≫岐阜県 2015年3月2日 8人参加</p> <p>(15) 児童養護施設協議会職員研修 ≪実施場所≫奈良県 13日 8人参加</p> <p>(16) RTC 間協力会合 2015年3月26日 各 RTC の現況報告の後、フィリップモリスジャパン社助成事業の配分、中学生暴力防止プログラムトレーナー養成などについて話し合った。</p> <p>(17) 児童養護施設等施設養護における CAP プログラム実施（フィリップモリスジャパン社助成事業+GiveOne プロジェクト） ≪実施場所≫13 都府県 44 施設 4月～2015年3月 1,993人参加</p>
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・年々第6事業が増えており、多様な発信の場を持つことができた。 ・人的ネットワークが広がり、そこから事業につながっているものが出てきている。 ・連携の中で運営委員として関わるなどによって、団体運営や会議運営、イベント運営などについて学ぶ機会となった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・外部での会議が多くなり、日程や時間調整が難しくなることが多くなってきたことから、月初の事務局ミーティング等で確認を行い、役割分担をしていくことが必要。 ・投資の側面の大きい事業であることから他事業につながる意識を持って臨むことが必要。

Ⅲ. その他の活動

内 容	日 程	場 所
体罰をみんなで考えるネットワーク (旧：反体罰 NPO・研究者連絡会)	4月1日、5月10日、7月3日、 8月3日、9月8日、10月18 日、11月25日、1月11日、2 月2日	大阪市
子どもの権利条約批准20周年記念キャンペーン委員会（子 どもの権利条約フォーラム実行委員会）	4月4日、4月22日、8月20 日、11月5日	東京都
NPO/NGOの組織基盤強化のためのワークショップ（団体報告）	5月12日	大阪市中央区
Panasonic NPOサポートファンド助成報告会	7月17日	東京都江東区
第3回アニマルケア国際会議	7月19日	神戸市中央区
関西子どもの権利条約フォーラム2014 実行委員貴	7月22日、8月19日、9月6 日、10月1・7・15日、1月5 日、2月25日	大阪市港区
研修会「オンライン寄付調達を学ぼう」	8月27日	東京都中央区



◀子どもの権利条約批准20周年
キャンペーンの一環で行われた
批准記念日の集いの一コマ。
左から尾木直樹さん、坪井節子さん
喜多明人さん



体罰をみんなで考えるネットワーク▶
たくさんの方とつながって。

Ⅳ. 各種委員会等

事業分類	内 容	日 程	場 所
管理	監査	4月9日	事務所
管理	ネクストステージ委員会	4月11日	西宮市市民交 流センター
管理	決算理事会	4月12日	西宮市市民交 流センター
第1事業	ベーシックトレーナー会議	4月17日、5月8日、10月2日、11月6日、12月4 日、12月10日、2015年1月10日、2月6日、2月 11日、2月15日	講座開催地
第1事業	トレーナートレーニング	7月27日、9月27日、10月18日、11月15・29日、 12月14日、12月23日、2015年1月19日、2月5 日、3月29日	明石市、事務所
第1事業	プレトレーナー会議	5月5日	事務所
第1事業	スペシャルニーズプログラム トレーナー会議	5月6日	事務所
第1事業	ITミーティング	5月15日、6月26日 ※ITミーティングは、3月までの委託が終了したこ とから業務引き継ぎのためのミーティング	事務所
管理	第13回定時総会	5月25日	西宮市市民交 流センター

管理	ホームページリニューアルプロジェクト	6月1・29日、8月24日、10月19日、11月5日、12月15・19・20日、1月31日	大阪市生涯学習センター、サービスグラント事務所ほか
管理	社会指標づくり学習会 認証規格プロジェクト	7月21日、8月17日、11月11日、12月22日、2月27日 9月19日、10月17日（準備会）	西宮市市民交流センター

ホームページリニューアルプロジェクトの会議▶
Panasonic プロボノチームの皆さんと。
仕事が終わってからやお休みの日にも。



◀社会指標づくり学習会
認証規格プロジェクトの会議の様子。
外部の委員の方との会議では、
活発な意見交換が行われました。

V. 助成事業

助成元	内容	助成金額	事業分類	助成期間
フィリップモリスジャパン社	CAP 児童養護施設プログラム実施と広報	6,000,000 円 内訳：CCJ360 万円	第 6 事業	4 月～ 2015 年 3 月
Panasonic NPO サポートファンド	組織基盤強化	686,020 円	管理	4 月～6 月
サービスグラント	ウェブサイトのリニューアル (プロボノ)	400 万円規模	管理	6 月～

VI. ご寄付

	内容	寄付金額	事業分類	日程
クラウドファンディング READYFOR? (レディーフォー)	子どもにだけ見える世界「チャイルドビジョン」のうたを届け ない 目標額：1,200,000 円	1,059,074 円 ・計 123 人 ・いいね！1,461 人	第 4 事業	5 月 26 日 ～8 月 4 日
寄付サイト GiveOne (ギブワン) E-ファンドレイジングチャレンジ 2014	児童養護施設の子どもの声 を届ける 目標額：500,000 円	228,850 円 ・計 52 人 ・25 団体中 3 位	第 4 事業	10 月 1 日 ～31 日
寄付サイト GiveOne 継続プロジェクト	児童養護施設の子どもの声 を届ける	17,112 円 ・のべ 19 人	第 4 事業	11 月～ 2015 年 3 月
寄付サイト GiveOne 継続プロジェクト	児童養護施設の子どもの “あなたは大切” と伝えよう	279,423 円 ・のべ 169 人	第 6 事業	4 月～ 2015 年 3 月

Ⅶ. CAP センター・JAPAN の運営に関する事項

(1) 定時総会の開催

第 13 回定時総会

日時: 5 月 26 日(日)14:00~16:00

会場: 西宮市市民交流センター2F ホール

出席者数: 当日出席 34、書面による出席 43



以下の全議案が承認されました。

議事: 第 1 号議案 2013 年度事業・会計報告の審議・承認

第 2 号議案 2014 年度事業計画・収支予算の審議・承認

第 3 号議案 理事の改選についての審議・承認

(2) 理事会の開催

第 1 回理事会 6 月 1 日

第 2 回理事会 11 月 30 日

第 3 回理事会 2015 年 2 月 28 日

第 4 回理事会 2015 年 4 月 12 日(決算理事会)

いずれも会場は、西宮市市民交流センター。



2014 年度役員一覧

理事長	側垣 一也	社会福祉法人三光事業団 理事長。およびひかり保育園園長
理事	家本 めぐみ	toddle(タドル)わかやま代表
理事	島村 優子	フリーライター、元 CAP 八王子代表
理事	江口 聡	特定非営利活動法人しみん基金 KOBE 事務局長
理事	鷺見 雅子	CAP 周南代表
理事	西澤 哲	山梨県立大学人間福祉学部教授
理事	長谷 有美子	NPO 法人 CAP センター・JAPAN 事務局長
理事	古野 陽一	NPO 法人子どもとメディア専務理事
監事	能島 裕介	NPO 法人ブレインヒューマニティー理事長
監事	森本 志磨子	大阪弁護士会所属弁護士

(3) 正会員について

2014年度:会員数 89(団体 84、個人 5)

2010年度:会員数 95(団体 95)

2011年度:会員数 87(団体 87)

2012年度:会員数 91(団体 87、個人 4)

2013年度:会員数 90(団体 87、個人 4)

(4) 事務局について

・人員体制

事務局長:長谷 有美子

事務局次長:重松 和枝

会計担当:増本 有砂(実務:東條 恵美子)

事務局員:津高 聡子・脇 千裕・作野 今日子

Ⅷ. 資料 新聞記事

山陽新聞 2014年8月2日(土)掲載

山陽新聞 2014年(平成26年)8月2日 土曜日 **暮らし** 14

子どもへの性暴力防止

知らない人との安全な距離の取り方
腕2本分以上離れる



子どもたちが自分を守るためにできること

- 相手の足のすねを蹴る
- 相手の足の甲を思い切り踏む
- 口をふさがれたら、相手の小指を持って手を引きはがす

それでももし体をつかまれてしまったら

そして

おなかから低い大きな声を出して逃げる

「いやだ」と感じる力を

子どもが性犯罪の被害者になる事件が後を絶たない。幼い子どもを性暴力から守るために、できることは何だろう。米国で開発され、大きな効果をあげている暴力防止プログラム「CAP」を実践するNPO法人に、ポイント聞いた。

ワークショップ開催 NPOに聞く



子ども向けの暴力防止プログラムを実践するNPO法人「青い空」のスタッフ＝東京都板橋区

「怖いことやいやなことを言われたときは、相手が誰でも『いやだ』と言っていいんだよ」

東京都板橋区にあるNPO法人「青い空」の事務所で、小学生向けワークショップを実際に見せてもらった。性暴力の防止で大切なのは、子ども自身がそれを「いやだ」と感じることに。そのために、まずはどんな子どもにも「安心」「自信」「自由」という三つの権利があることを伝える。

自分を守るためにできる行動としては①「いやだ」と言う②逃げる③誰かに話すなどの選択肢があるという。「知らない人についていってはいけない」「世の中には怖い人がいる」などの「禁止事項」や「脅し」ではなく、劇を交えながら、子どもと一緒に「できること」を考え、自信を持たせるのもCAPの特徴だ。

「『いや』の表現も、逃げるための方法もいろいろあっていい。マニュアルを刷り込むのではなく『いやなことをがまんしなくていい。逃げていい。自分にはその力があるんだ』と感じてもらうことが大切です」と、副理事の西村説子さん。

実は、性暴力の加害者は身近な人であることも多い。ワークショップでは「もし、親戚のお兄さんに無理やりキスをされたら」という想定の手劇をしてみせた上で、こう呼び掛ける。

「けがをしたときにお母さんがしてくれるキスは、安心した気持ちになるよね? それとは違う、いやな気持ちになるような触り方を誰かがしたら、信頼できる大人に話してほしい」

「気をつけてほしいのは、大人の面定的な『性』のイメージを子どもに植え付けたくないことだという。例えば、水着で隠れる『プ

大人はSOS受け止めて

「子どもに、『ここはプライベートゾーンじゃないから、がまんしなくちゃいけないのかな』と思わせてはいけない」と、そして何より大切なのが、子どもがSOSを発したときの大人の対応だ。「『何でもっと早く言わなかったの?』ではなく、まずは『話してくれてありがとう』と返してください。その上で『あなたは何も悪くない。何ができて一緒に考えよう』と声を掛けて」と、原田さんは助言している。

※この記事は、共同通信から配信されたもので高知新聞に8月2日(土)、静岡新聞には8月3日(日)に掲載されました。

Ⅸ. ご支援いただいた個人および団体

【正会員】個人 5 人、団体 84 計 89

(個人)

角田 尚子、島田 由佳里、敦賀 律子、三宅 裕子、横山 岳

(団体)

CAP とらいあんぐる、CAP 東埼玉、CAP くれよん、くき CAP、CAP せたがや、NPO 法人 CAP ユニット、NPO 法人 青い空ー子ども・人権・非暴力、CAP ハレノヒ、CAP 元気、CAP プラム、CAP かわさき、CAP たんぽぽ、NPO 法人 CAP かながわ、NPO 法人 やまと CAP ひまわり、NPO 法人 CAP 凸凹神奈川、かながわ CAP みらくる、goo!goo!の会、CAP やまなし、静岡 CAP 連絡会、名古屋 CAP、NPO 法人 あいち CAP プラス、人権ワークショップグループあるふぁ、チャイルドサポート企画 RECO(レコ)、とよはし CAP、CAP みえ、CAP 柘、CAP ひまわり座、CAP あい、CAP 子ども人権教育センター、CAP 滋賀、CAP レラ、ふくちやま CAP、NPO 法人 西淀川子どもセンター、ひとつぶのたね、おおさか CAP エコール、CAP プロジェクトやお、CAP プロジェクト大阪狭山、堺 CAP プロジェクト、NPO 法人 CAP いずみー暴力防止・人権ネット、しまもと CAP、CAP もりぐち、CAP Action、C サポート・こうべ、CAP にしのみや、むこがわ CAP、さんだ CAP、はりま CAP リバ、ひかみ CAP、NPO 法人 女性と子どものエンパワメント関西、NPO 法人 奈良 CAP、toddle(タドル)わかやま、CAP きのくに橋本、ハッピーママライフ、とっとり CAP、島根 CAP、はまだ CAP、ますだ CAP、CAP おかやま、CAP つやま、エンパワメント MOMO、NPO 法人 CAP 広島、CAP 賀茂、CAP おのみち、CAP うべ、CAP 下関、CAP 西京、CAP 周南、CAP とくしま、CAP みよし、香川 CAP、愛媛 CAP、CAP うわじま、CAP にいはま、NPO 法人 にじいる CAP、こども CAP ふくおか、一般社団法人 さが子どもにやさしいまちづくりセンター、CAP ちくほう、ほつぷ・すてっぷ・CAP くまもと、ライツオブチャイルドみやざき、おおいた CAP、せんだい CAP、子どもの人権 CAP おおすみ、NPO 法人 おきなわ CAP センター、CAP いしがき

【活動会員】397 人

愛甲 かおり、青木 明子、赤井 美佐子、赤木 美子、明石 圭子、赤穂 眞由美、芥川 裕子、東 深幸、足立 菊江、足立 淳子、足立 美子、阿部 和代、阿部 真紀、有田 雅恵、安食 富美子、飯島 聡子、飯田 佳子、五百蔵 夕陽、井口 千鶴、池田 灯文、石井 千鶴、石谷 泰枝、石川 正美、石崎 和美、石崎 由喜子、泉 直美、和泉 富美子、伊勢 郁美、板津 伊津美、板橋 美季、市川 和佳子、伊藤 栄子、伊東 千恵、伊藤 直美、伊藤 初美、糸数 貴子、稲葉 恭子、稲葉 清美、稲葉 辰子、今井 明美、今井 なみえ、今西 洋子、岩崎 美奈子、植木 誠司、上田 悦子、植中 都、上間 邦子、内園 みどり、内田 容子、内野 清子、宇原 敏子、梅井 規子、梅田 磨紀、梅田 正子、梅津 大樹、江坂 雅世、江崎 路子、江田 直子、枝澤 祥恵、遠藤 浩美、大麻 淑子、大機 貴美子、大久保 真紀、大迫 友美、大島 加容子、大嶋 敬子、大島 都、大城 静香、大野 清子、大橋 涼子、大橋 涼子、大元 好美、大家 弘美、岡部 百世、奥井 直美、奥田 紘子、小倉 明美、小澤 晴美、小野原 典子、柿岡 文彦、笠松 利穂、梶田 はるな、梶山 恵美、片岡 義浩、加藤 市郎、加藤 美由紀、加藤 由貴、門田 美穂、金井 憲、金子 美和、加納 美緒、上代 みゆき、上林 由佳、河毛 貞子、川崎 啓子、河崎 紀子、川島 祐子、川田 郁美、川野 阿佐、川野 かおり、河野 葉子、川元 欣子、岸 徳枝、岸部 知佐子、競 朗子、北谷 直子、北野 真由美、北村 妙子、鬼頭 千賀子、木藤 ひろみ、木下 ひろみ、木村 あゆみ、木村 克子、木

村 敬子、日下 智賀子、楠澤 朝日、久保 宏子、久米 洋子、國谷 弘美、栗坂 三枝子、栗田 みえ子、栗本 知恵、黒崎 奈美、黒田 幸美、鴻上 智保子、高台 加奈、古賀 千穂、國分寺 晶、越村 千晶、小林 明子、小林 映子、小林 貴子、小林 由美子、小山 千世子、紺藤 昌美、今野 勤、齋藤 亜紀、齋藤 薫、齋藤 聖美、齋藤 弘一、齋藤 彰美、齋藤 真理子、齋藤 美紀、阪口 武、坂田 恭子、坂本 清子、作石 恵子、笹川 裕美、佐々木 麻希、佐々木 正子、笹原 まき子、佐藤 あけみ、佐藤 香世子、佐藤 静枝、澤地 文恵、塩崎 司、式田 恵、竺原 晶子、重永 侑紀、繁原 美保、芝田 文江、清水 美津子、清水 百子、下田 一輝、下田 幸子、新開 ちあき、菅原 亜紀、杉浦 登喜子、杉原 昭子、杉山 貴子、杉山 恵、鈴木 まゆみ、鈴木 陽子、・木・子、鷺見 雅子、・田 万子、関口 智子、関口 啓之、関根 美樹、瀬戸 ちえみ、曾根 律子、高木 千乃、高須賀 佳子、高田 典子、高橋 晴代、高橋 雅子、高橋 由美子、高峰 司津江、高本 泰子、高柳 葉子、田川 千春、瀧 美智子、多久島 美代子、田口 陽子、竹内 まさ子、竹川 竹代、立花 初美、田中 市子、田中 賀恵、田中 利江、田中 裕子、田中 ひろ子、田辺 亜也、谷口 淳子、田畑 久美子、田村 秀子、為清 淑子、団 純平、千葉 みさ子、茶谷 裕子、辻 光治、辻本 富子、堤 暢子、鶴野 由美、寺井 有子、寺田 陽子、天明 美穂、堂前 洋美、時田 理香、徳永 桂子、富永 智子、友永 幸子、豊嶋 祐基、豊田 静里香、鳥居 かおり、内藤 一、永井 実千代、永石 美保、長江 恭子、中尾 玲子、長岡 幸子、中川 明子、中川 早苗、長澤 恭平、長澤 雅江、中島 美子、中園 明美、中田 陽子、中谷 弘子、長畑 恵子、中村 淑子、中村 紀子、西 幸代、西川 弥生、西田 由美子、仁科 登代子、西永 玉枝、西村 説子、西村 照子、西村 道子、西山 こずえ、沼野 真由美、野口 恵、野澤 元子、朴 宗筍、橋本 麻美、橋本 澄子、橋本 朋子、橋本 真澄、橋本 由希子、橋本 由美子、長谷川 浩子、畑野 ゆかり、波多間 佳子、浜 千加子、早川 真理、葉山 道子、原 正子、原 真奈美、原田 明美、原田 訓子、日置 三津子、日高 恵、秀島 晴美、日比野 一子、平尾 真弓、平澤 貴裕、平島 小百合、平野 美津子、平松 喜代江、平松 重美、平山 智恵、深谷 朋子、福田 あゆみ、福野 由記、富士 博良、藤井 いつみ、藤井 和子、藤澤 志織、藤田 秋香、藤田 英利子、藤田 昌子、藤田 房子、藤田 美香、藤野 明美、藤本 佳子、藤原 律、藤原 幸子、藤原 純子、藤原 ゆかり、二見 敬子、二矢 都子、不藤 悟、船倉 浩子、富名腰 清子、古池 哲郎、古江 かほり、庖丁 高子、星 操、細川 一美、堀口 博子、堀口 美和子、本村 久美子、前川 哲和、前迫 早苗、前田 恭子、前田 信江、前野 仁美、増田 知巳、松崎 玲子、松田 直美、松本 和代、真鍋 登喜子、丸田 勝弘、丸田 昌子、三浦 昌恵、三木 美波、水口 きみ代、水野 恵子、溝川 記子、三橋 広美、峰重 麗、三野 敬子、宮木 浩美、三宅 一世、宮里 和則、宮武 洋介、宮地 登紀子、宮原 久美子、宮本 瑞恵、三輪 裕子、向山 恵美、武藤 昌代、村上 よう子、村木 順子、村田 優子、室垣 美栄子、室田 純子、森崎 和代、森田 幸代、矢島 利江子、安江 節子、養父 栄子、山川 弘子、山口 陽子、山崎 美穂、山下 明美、山田 敦子、山田 早苗、山根 珠江、山平 利恵、山本 千恵子、山本 真由美、山本 真理、ヨウ フィージェュー、横大路 英理子、吉島 百合子、吉田 千文、吉田 由美子、吉信 菊美、米倉 育子、若杉 美起子、若松 千恵子、脇 千裕、和治 佐代子、和田 祥子

他匿名 21 人

【賛助会員】15人(21口)

唐橋 京子、木村 いほ子、澤野 まり子、竹室 剛、田中 紀子、辻 光治、西 洋子、西川 幸江、濱田 大、原田 まゆみ、廣田 恵介、藤原 知美、真栄田 淳子、森田 祥、渡辺 知子

【寄付者】3団体、28人

(団体)

CAPくれよん、CAP周南、CAPかわさき

(個人)28人

阿部 真紀、大機 貴美子、奥田 紘子、河崎 紀子、斎藤 真理子、笹川 裕美、佐藤 香世子、重永 侑紀、清水 百子、関口 智子、田中 利江、田中 紀子、田畑 久美子、辻 光治、敦賀 律子、徳永 桂子、鳥居 かおり、中島 美子、葉山 道子、原田 薫、富士 博良、水野 恵子、宮原 久美子、向山 恵美 他匿名4人

【クラウドファンディング READYFOR?

『子どもだけに見える世界「チャイルドビジョンのうた」を届けたい』の寄付者】 123人


【寄付サイト GiveOne CCJ プロジェクト『児童養護施設の子どもに“あなたは大切”と伝えよう』の寄付者】

169人

【寄付サイト GiveOne E-ファンドレイジングチャレンジ 2014

CCJ プロジェクト『児童養護施設の子どもの声を届ける』の寄付者】 71人

以上のほかに、総会運営、研修運営、印刷、郵送物発送など、多くのボランティアの方に活動をご支援いただきました。

また、団体 Facebook ページにいいね  の共感を 411 人の方から寄せていただき、Twitter は、142 人の方からフォローしていただいています。(2015 年 3 月 31 日現在)



Facebook の画面と QR コード



Twitter の画面

Facebook、Twitter ともにぜひ一度ご覧になってください。



特定非営利活動法人（NPO 法人）CAP センター・JAPAN の団体概要

1. 設立目的

特定非営利活動法人 CAP センター・JAPAN は、子どもへのあらゆる暴力を許さない社会を創ることをめざし、CAP の普及を通して家庭や学校、地域の連携を強めている。また、CAP 活動を実践する人材の養成および研修事業、CAP グループへの情報提供及び相談などの支援事業、CAP グループおよび関係諸機関とのネットワーク推進事業などを実施し、子ども自身が人権意識を持ち、子どもの人権が尊重される社会の実現に寄与することを目的とする。

2. 法人設立経過

1995年 1月	CAP センター・JAPAN の前身 CAP トレーニングセンター (JCAP) 設立
1998年 8月	CAP センター・JAPAN の設立
2000年 11月	特定非営利活動法人設立総会開催
2001年 5月 11日	特定非営利活動法人認証
5月 14日	特定非営利活動法人への登記を完了し法人設立

3. 特定非営利活動の種類

- (1) 社会教育の推進を図る活動
- (2) 地域安全活動
- (3) 人権の擁護または平和の推進を図る活動
- (4) 子どもの健全育成を図る活動
- (5) 前各号に掲げる活動を行う団体の運営または活動に関する連絡、助言または援助の活動

4. 主要事業

- (1) CAP プログラムを提供する各種人材の養成講座と研修学習事業
- (2) 子どもへの暴力防止全般の学習・啓発事業
- (3) CAP に関する情報提供および相談事業
- (4) CAP に関する広報事業および出版事業
- (5) CAP 実践に関する調査およびプログラムの効果調査
- (6) 子どもの権利擁護と暴力防止に関わる個人および団体との連携のための事業
- (7) その他、この法人の目的達成のために必要な事業

CAPトレーニングセンターとしての(以下、RTC:Regional Training Center)
CAPセンター・JAPAN

NPO 法人 CAP センター・JAPAN は、日本南部エリア 32 都府県の CAP トレーニングセンター (RTC) です。
2008 年に CAP に関するすべての権限を持つ ICAP の組織改革が行われました。
2009 年 4 月には北部 CAP トレーニングセンター J-CAPTA が誕生し、北部エリア 15 道県を担当しています。

アイキャップ

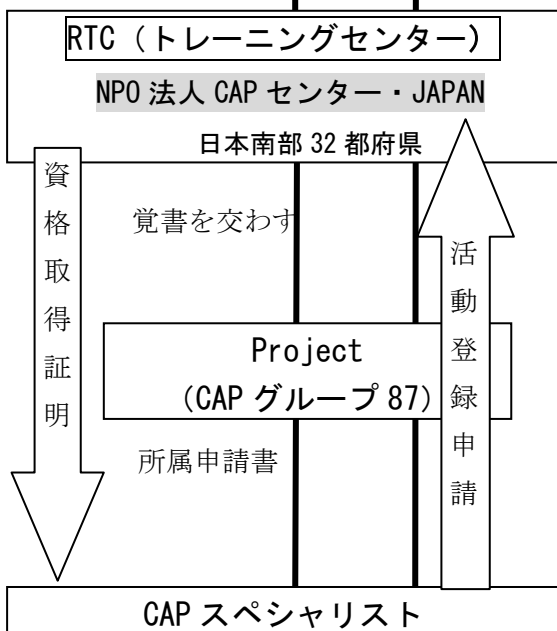
ICAP 国際暴力防止センター

International Center for Assault Prevention の略。

米国ニュージャージー州にある EIRC (教育支援情報センター) 研究所の一部門。CAP プログラムの全ての権限を持っている。



RTC 契約書を交わす



◆RTC (アール・ティ・シー) Regional Training Center の略
リージョナル・トレーニングセンター (CAP トレーニングセンター) の略称です。ICAP から任されたエリアの本部として設立されます。ICAP が著作権を持つ CAP カリキュラムのエリアにおける唯一の配布者として権限を持ち、ICAP との間で「RTC 契約書」を交わします。

◆覚書

RTC と CAP グループが交わす活動に関する覚書。CAP プログラム実践活動を行うには 1 年毎に RTC と覚書を交わすことが必要です。

◆CAP トレーナー

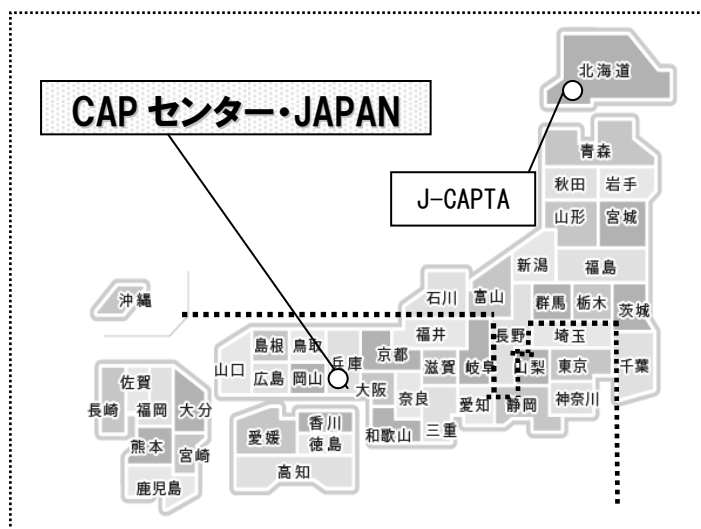
各カリキュラムのトレーニングを行う講師をすべて CAP トレーナーと呼びます。2014 年度は、3 人のベーシックトレーナーと 3 人のプレトレーナー、さらにスペシャルニーズプログラムトレーナー 4 人でトレーニングを行いました。

◆CAP スペシャリスト活動登録申請

グループに所属して CAP プログラム実践活動を行う CAP スペシャリストは、グループを通じて RTC への「CAP スペシャリスト活動登録申請」を行います。グループに所属しない場合は、資格取得証明が手続きを経た後、発行されます。

◆CAP スペシャリスト資格更新制度

活動する CAP スペシャリストは、3 年毎に資格更新をします。資格更新のための必須研修はトークタイム。2013 年 4 月末に 1 回目の更新が行われて以降、毎年 4 月末に更新が行われています。



※CAP センター・JAPAN と覚書を交わした CAP グループについては団体 HP をご覧下さい。

<http://www.cap-j.net>



特定非営利活動法人 CAP センター・JAPAN

〒662-0825 兵庫県西宮市門戸荘 17-34

スマイルヴィラ 105

TEL:0798-57-4121 FAX:0798-57-4122

URL:<http://www.cap-j.net>

E-mail info@cap-j.net

Facebook:<https://www.facebook.com/capc.japan>

2015年4月作成